

令和6年収蔵品展

〔新収蔵資料紹介〕

前田土佐守家の家老 生沼家

開催期間：令和7年3月1日(土)～4月20日(日)月曜休館



生沼甚左衛門宛 前田直堅知行宛行状(当館蔵) 元禄12年(1699)11月15日

前田土佐守家4代当主直堅が家臣・生沼甚左衛門に宛てて発給した知行宛行状。知行宛行状は武家にとって最も大事な文書である。

生沼甚左衛門は2代当主前田直之の頃から仕えていた給人生沼善兵衛の子と推定する。当初、前田土佐守家の小姓として仕えていた生沼甚左衛門は、4代当主前田直堅の時に、長年の精勤に対して家禄70石を与えられ、前田土佐守家の給人となった。これが分家・生沼甚左衛門家の成立と考える。以後、生沼甚左衛門家も代々、給人として前田土佐守家に仕えた。

開催にあたって

前田土佐守家資料館では令和元(二〇一九)年度に七十余点の古文書群「生沼甚左衛門家文書」(仮称)を前田土佐守家に関連する資料として新たに収蔵しました。

生沼甚左衛門家は前田土佐守家の重臣です。前田土佐守家をはじめ、一定以上の禄高を有する加賀藩士家では、家格を維持し、家政を運営するために家臣たちを召し抱えていました。このように藩士に仕える家臣たちは藩主(大名)の陪臣と位置付けられます。彼らは藩士、すなわち藩主(大名)に仕える直臣と同様に、藩士を主家として仕え、日々の仕事をこなし、その対価として給禄を食っていました。家の規模や時代によっても異なりますが、年寄衆八家に代表されるような万石以上の加賀藩士たちは数百人の家臣を召し抱えていたようです。

このたび収蔵した「生沼甚左衛門家文書」は、加賀藩陪臣の姿や前田土佐守家の家政の仕組みを明らかにする一助となるものです。本展では、これらを一堂に公開し、加賀藩陪臣の職務や暮らしぶりについて紹介します。

前田土佐守家資料館

〒920-0981 石川県金沢市片町2-10-17

電話 076-233-1561 FAX 076-261-0806

<https://www.kanazawa-museum.jp/maedatosa/>

開館時間 午前9時30分～午後5時(閉館30分前までにお入り下さい。)

休館日 月曜(休日の場合はその直後の平日休館) 年末年始(12/29～1/3)

観覧料金 ◆一般 …………… 310円 ◆65歳以上 …… 210円
◆団体(20名以上) … 260円 ◆高校生以下 … 無料

起居録89号 令和7年3月1日発行

印刷/(株)橋本清文堂

